

選手直前インタビュー 俺の出番だ!!



稲垣 裕之 (京都/86期)

人の後ろに付くことが増えてきたんで、それに対応する自転車なり、走りが求められている。そのなかで全体的なスピードをもっと上げていかないと。練習自体はしっかりできているし、大事な地元記念ですから。(8月の向日町)F1で結果を残せなかったんで、そのぶんも平安賞でっていう気持ちが強いです。



村上 博幸 (京都/86期)

宮杯が終わってから後半戦に向けて追い込んだ練習をやった。7月は落とすぐらいでやったけど、思ったより落ちたんでメンテナンスの仕方が難しいですね。毎年呼んでもらってるし、1年でどれだけ成長したかを確かめるのが地元記念だと思ってる。後半戦不甲斐ないところもあるんで、しっかり走りたい。

一戸 康宏 (埼玉/101期)

8月松戸記念では、強気な組み立てで2勝をマーク。これできっかけをつかむと、同月小田原記念でも番手まくりの山田久を破るなど2連対の好走を見せた。点数以上の脚があるだけに、上位戦でも侮れない。



北村 信明 (徳島/93期)

7月福井記念で怪我から復帰すると、続く防府は無傷で優出。さらに、8月川崎G3で2勝や、8月伊東を1①⑧着とキメ脚が冴えわたる。今の状態なら、展開不問で強襲劇を演じる可能性も。



真船 圭一郎 (福島/94期)

怪我からの復帰戦となった8月川崎G3では、力強い走りで①②⑧②着。「思った以上に悪くない」と周囲の不安を一蹴してみせた。ゆとりのローテで臨める今節は、さらなる活躍に期待がかかる。

S級ブロックセブン

9/25 (最終日) 6R

ブロックセブンとは

「推理しやすい、わかりやすい、的中しやすい」をコンセプトにした、競輪独特の「地区」の色合いをより濃く打ち出したS級7車立ての新たな単発レース。

一方、吉田敏洋はヘルニアが治まらず、共同通信社杯も欠場。ここまでのごとくまで戻せるか。

明の突き抜けも怖い。

松浦悠士も、島川将を利用して8月静岡を制覇と好調。単調なレースにしなければ、鋭いまくりで台頭も。また、松浦のレースとなった場合、差し脚抜群な新井秀

掛けで結果を出して親王牌に向かいたい。志村太賀が好ガードから差し切りを狙う。

ブロックセブンもかなりのビッグネームが名を連ねたが、本命は郡司浩平だ。8月地元の小田原記念では、南関の結束を最大限にアピールする形で今年初Vを

郡司浩平が押し切る



郡司 浩平